

【熊本県教育委員会賞】

あきらめない力

山鹿市立大道小学校 6年 川上 心愛

今年の夏休みは、コロナ感染拡大や大雨が続き、友達と遊んだり旅行に行ったりすることを、家族と話し合っただけで済ませた。コロナの影響が、こんなに長く続くとは思わなかったが、「仕方がない」「小学生の自分にはどうすることもできない」と思っていた。2学期は、楽しみにしている運動会や修学旅行が予定されているがどうなるか心配だった。

そんな時、「あきらめることは無意味だ」という蟻田功さんの活躍を知った。今から60年以上前、「天然痘」という世界で流行した病気があった。今と同じようなことが過去にもあったことを知らなかったし、その病気の根絶のために最高責任者として働いた人が日本人だったことにびっくりした。しかも、熊本の人だと知って、今のコロナのことに置きかえて考えてみて、すごいことだと思った。

蟻田さんのすごいと思ったところは、やっぱりあきらめなかったことだ。世界に広まっている病気を根絶させるなんて大きすぎる目標だと思ったけれど、もし蟻田さんに、この目標もなくて、「日本だけ」とか「このくらいでいい」とだきょうしていたら、もしかしたら根絶できなかったかもしれない。そして、すぐに結果がでなくても、無理と思ってやめたりレベルを下げたりしないで、やれることを続けたことがすごい。いろいろな方法を工夫したり試したりしてあきらめないでやり通したからこそ、時間はかかっても遠回りしても根絶にたどり着いたと思った。

自分はどうかと考えてみた。コロナ禍も大雨も自分にはどうにもできないことだと最初からひとつごとのように考えていた。

でも、ふりかえてみると、私の周りの人たちは、そうではなかったかもしれない。私の母は、夏休みに私を毎日散歩にさそってくれた。周りの景色や自然、生き物を見ながらおしゃべりをして歩いた時間が、けっこう楽しい夏休みの思い出になっていたことに気づいた。突然雨が降り出した時も、ぬれながらも笑って歩いていたことも思い出した。母は、私の夏休みをあきらめていなかった。蟻田さんのような大きな目標ではないけれど、私を楽しませようとしてくれていたんだと思う。

私は、コロナ禍は必ず乗り越えられると思った。この熊本に世界の中心となって活躍した人がいたように、人のあきらめない力はすごいと思う。そうやって乗り越えてきたことがいっぱいあって、今の私たちの生活があると思う。どんな状況でも「救いたい」「守りたい」とか、「楽しませたい」とかいう人を思う気持ちは強い力をもっていて、あきらめない心を生み出していると思う。私も、こんな時だからこそ、運動会を成功させたいと強く思うようになった。私たちのがんばる姿を見てもらって、見てくれる人を元気にしたい。